

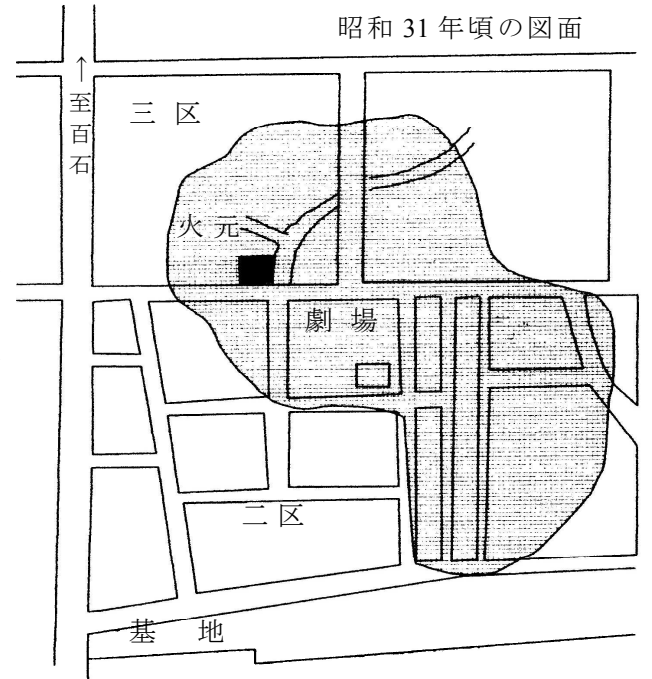


桔梗野大火



桔梗野 千葉謙一

昭和31年頃の図面



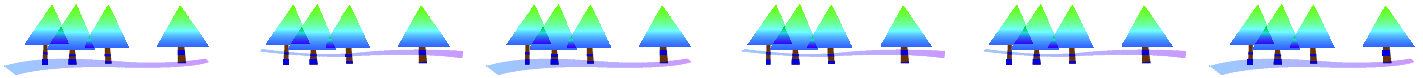
桔梗野の町は、戦後に米軍の進駐に伴い世帯数が急増しました。特に飲食店などが密集した町となり、火災が発生すると大火になることが多かったようです。

記録に残る昭和30年以降、昭和57年までの27年間に、毎年火災が発生しています。

昭和31年4月17日の桔梗野大火は、120棟の火事でした。風速20メートルの西風が強く吹き、異常乾燥注意報が発令中の午後4時20分ごろ、飲食店「モナコ」の改装中の失火から出た火災は92世帯が罹災し、災害救助法を申請する大火でした。

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 昭和 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 46 | 47 |
| 件数 | 8 | 4 | 9 | 2 | 5 | 3 | 3 | 2 | 2 | 4 | 3 | 3 | 2 | 5 | 4 | 1 | 3 | 3 |
| 焼失 | 3 | 167 | 31 | 30 | 9 | 11 | 3 | 2 | 2 | 24 | 3 | 3 | 9 | 39 | 22 | 2 | 4 | 3 |
| 昭和 | 48 | 49 | 50 | 51 | 52 | 53 | 54 | 55 | 56 | 57 | 58 | 59 | 60 | 61 | 62 | 63 | 平成 | |
| 件数 | 2 | 3 | 2 | 1 | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | |
| 焼失 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 4 | 2 | 5 | 2 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 4 | 0 | |

参照：デーリー東北、昭和31年4月18日(水)の記事 「八戸市消防団史」



石碑をたずねて ⑦

轟木下 木村隆一

1. 名称 「ぎょこうだいみょうじん漁光大明神」

2. 場所 「しらひげじんじや はしむかい白髭神社(橋向)」の境内

3. 意味 鯨がとれてみんながそれを神様に感謝し、今後の大漁をお願いしたもの。

4. 内容 鯨を捕獲した記念の石碑。江戸時代に三陸沖を回遊する鯨は海中のプランクトンや鰯を追って移動しており、その軌跡を「鯨道」と呼んでいる。当時、その鯨道が八戸沖にあったらしく、鰯を追って浜辺までやってくる「寄り鯨」や、シャチに追われて陸上に跳ね上がった「あがり鯨」、殺されたりした「死に鯨」を捕らえる方法が主であった。

浜市川も「寄り鯨」や「あがり鯨」で村が賑わったことがあり、その中でも、文化三年(1806)に捕獲した鯨は非常に大きく、その尻尾の中からノルウェーの鯨鰭が発見された。これを記念し、頭と鰭をここに埋め、同年6月6日に90cmほどの石碑を建て、これからの漁を祈願したという。

5. 思い 日本では大昔から鯨をとり、これをあますことなく利用するという世界に類を見ないような食文化を持っている。(鯨のヒゲをカラクリ人形のバナ等にも利用) しかし、今日のように鯨が



「絶滅の危機に瀕している」とのことで、捕鯨は禁止(調査捕鯨は継続)されているが、私が子どものころ母がまれに作るカレーライスはすべて鯨の皮を利用し、また、鯨汁も美味しくいただいた。

現在、鯨は自由に食することはできなくなったが、昔食べた鯨の味は、今でもなつかしく思い出される。

* 参考資料:「南部の碑は語る」

